

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500271		
法人名	社会福祉法人光仁会		
事業所名	グループホームさるびあ		
所在地	周南市城ヶ丘3丁目6番1号		
自己評価作成日	令和5年7月12日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染対策の中で、限られた行動範囲でどのように日々個々に合った生活が送られるかを検討し、それぞれの機能にあった家事作業や編み物・ちぎり絵などの支援を個別レクとして行ってきた。日々の生活に季節感を感じられるよう行事の仕方を工夫し、室内に神社を作って行う初詣、室内に草木を作り果物を吊り下げて行う果物狩り、紅葉ドライブ、イルミネーションドライブ、スイカ割り、花火大会等を行い楽しくすごせるようにしている。今まで以上に利用者とスキンシップを含めたコミュニケーションを図り、共に楽しみ利用者の笑顔が引き出せるよう雰囲気作りにも心掛けた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に沿って策定した運営基本方針と重点目標を掲示してケア実践上の道標とし、年度初めの内部研修で前年度事業計画評価と今年度事業計画を説明して職員間で共有している。重点目標も外部評価の目標達成計画を踏まえる等、具体的な評価検証を行っている。コロナ禍でも感染状況に応じ、現在は不織布マスクでの短時間面会が可能となっており、電話・年賀状のやり取りの他、法事・同窓会・受診・米泉湖への花見ドライブ・さるびあ便りによる近況報告等、馴染みの関係継続を支援している。又、コロナ禍のため外出行事も自粛の中、事業所内で工夫し、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。環境を整え、役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目(東町)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所基本方針と事業重点目標をスタッフルームやユニット内に掲示している。スタッフ会議や内部研修で職員全員に周知し、その理念を職場全体で共有し、認知症高齢者のケアの専門職としての自覚を促し、実践に努めている。	事業所開設に伴い理念に沿って策定した運営基本方針と重点目標を掲示してケア実践上の道標としている。年度初めの内部研修で前年度事業計画評価と今年度事業計画を説明し、職員間で共有している。重点目標も外部評価の目標達成計画を踏まえる等、具体的な評価検証を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の影響により、以前のような交流が難しい状況ではあるが、近隣保育園と互いに訪問し合う交流を継続している。 また、地域の自治会に加入しており、清掃活動に職員が参加するなど、地域との繋がりを途絶えさせないよう、可能な範囲の活動を継続している。	コロナ禍による活動自粛もあるが、自治会に加入し職員が地区一斉クリーン作戦・資源回収に参加協力したり、利用者が買い物を楽しめるよう移動販売車を利用する等、相互交流をしている。又、法人が地域の大学・中学校から実習生・職場体験の受け入れや近隣保育園との交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所を含む拠点全体の取り組みとして、例年、地域にある大学から実習生(社福・介福・教職)やインターンシップを受け入れている。また、近隣中学校からの職場体験学習の受け入れや、地域のシニアを対象としたスポーツ大会で、血圧測定と健康相談のブースを担当する活動を継続している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	令和4年度の自己評価に基づき目標達成に向けて具体的な改善に取り組んだ。外部評価の意義を説明し理解を深めたうえで自己評価に取り組み実践した。これまでの評価の結果は職員で共有しており日々のケアサービスに活かしている。	自己評価は施設長が職員に評価の意義を説明し、全職員が自己評価欄に記入したものを施設長等、管理職が集約している。職員は評価を通して日頃の実践の課題を把握し、事業所は外部評価結果に基づいた課題を踏まえ、全職員で達成すべき重要項目として今年度事業計画の重点目標に挙げている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度より、書面により活動を報告し、ご意見を照会する方式で対応している。照会シートに記載されるご意見には、コロナ禍で創意工夫を続ける職員を労ってくださるコメントが多く、職員の心の支えとなっていた。令和5年6月より、対面での会議を再開した。	会議は併設施設・事業所と合同で定期的に開催しているが、最近はコロナ禍で書面開催となっている。事業所の運営状況、特に事故報告に対する委員との意見交換により、具体的な状況や原因・対応策を検証している。又、地域から準備した七夕飾りを地域交流室で飾ろうという提案もあった。	会議には地域代表・知見者・行政等、多様な職種の参加を得ているが、コロナ禍であり家族の参加はない。参加していない家族との事業所運営に関する情報共有に不十分な面がある。今後は参加できない家族とのコロナ禍における情報交換の仕組み作りを通して会議の活性化を期待したい。

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所の実情やケアサービスの取り組み内容を積極的に伝えている。必要に応じてその都度相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターや市担当課職員は定期的に運営推進会議に書面参加しており、事業所の運営情報を共有している。市担当課とは日頃から介護保険制度等に関する相談や報告、行政主催の集団指導等、研修会での情報共有、拠点でのサービス利用連携等で協力関係の構築に努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を実施し、身体拘束の意味を職員が再認識し職場全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、行動や言葉の拘束についても行わないようチェックリストを実施し支援の振り返りをしている。玄関の施錠は夜間19時から翌日の7時まで安全性を考え行っている。	隔月の身体拘束廃止委員会・年2回の内部研修会・事業所の月例会議等を通し、職員は「拘束をしない」必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対し職員間で注意し合える関係性を構築している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で定期的に虐待の芽が出ないか、不適切な対応をしていないか検証している。法人全体の研修では外部講師を招いている。職員同士で日常のケアの中に虐待に繋がりがかねない対応が含まれていないかをカンファレンスにて検証し、職員同士で注意し合える関係性を築き、職員全体で未然防止に取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を使用している利用者は西町にはいるが、東町にはいない。キーパーソンが高齢であったり他に身内がない人もいるため、研修等を活用し、権利擁護に関する制度の理解を深めていく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除または改定などの際には利用者や家族に十分な説明とご理解を頂き契約の締結、解約を行っている。入居後、または退去後の生活の不安が軽減できるよう努めている。		

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに苦情受付担当者、苦情解決責任者を配置し、受付体制を契約時に説明したうえで玄関前にも掲示している。また、ご意見箱の設置と毎月発行しているさるびあ便りに掲載し、家族の面会時には直接ご意見・ご要望がないか確認し、ご意見・ご要望が運営に反映できるよう努めている。	利用者の意見は日々の会話の中で把握し、家族とは面会時・意見箱・毎月の事業所便りや様々な連絡手段等で管理者や職員が把握する様に努めており、記録に残し職員間で共有している。受診時に利用者の爪の伸びを指摘した家族の要望から爪切りチェック表の作成に繋がった例がある。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で、管理者やリーダーは職員から意見を聞く機会を設けている。月に一度のスタッフ会議や職員からの個別での相談や意見、提案を聞き、ユニット運営やよりよいケアに反映させている。	毎月の職員会議、毎日の申し送りや随時の職員との個別面談等を通し、管理者・リーダーは職員の意見を聞く機会を設け、業務上の提案に対する支援を行っている。職員の提案で乾燥肌の利用者に泡タイプのボディソープの導入や家族の情報により利用者の趣味だった編み物を行った例もある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に法人の各事業の運営について職員に報告を行い、個々の職員の努力が業績に反映されたことを理解する機会を設け、意欲の向上を図っている。職員の段階に応じた職責を確立させたキャリアパス基準を整備して、業績を適正に評価している。その結果を人事・任用・給与に反映させている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修は年間計画を作成している。職員一人ひとりの業務と力量に応じて外部研修への参加機会を確保し、個々の技術や知識の向上に努めている。	事業所は年間計画に基づき毎月内部研修を実施し、外部研修案内の中から各自の力量に応じた階層的な研修を提案している。外部研修後に参加者が伝達講習を行い、復命書も回覧して情報共有に努めている。新入職員にはメンタリングプログラムやOJTによる支援にも取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体で実施する内部研修では、グループワークを多めに取り入れ、特養やデイサービスの職員から意見を収集することで、新しい発見を見出し、サービスの質の向上に取り組んでいる。 外部講師を招き、リモート研修も実施している。		

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始前の申し込み時や本人との入居前面談時に、本人の思いをしっかりと聞き新しい生活が不安なく送ることができるよう務めている。困ったことがあれば早急に職員間で話し合い、少しでも不安を取り除くことができるよう務めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始前の申し込み時や本人との入居前面談時に、困っていることや不安に思っていることを聞き取り、少しでも要望に近づけるよう職員間で検討し、安心して過ごせるよう心掛けている。サービス開始時にはスムーズに生活が送れるよう信頼関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集に本人と家族の思いを聞き取り、状況に応じて「その時」必要としている支援を見極め、思いに添えられるよう他事業所とも連携を図り柔軟に対応できるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で個々に合った役割を見つけ行ってもらっている。作業後には労いの言葉かけを忘れず行っている。ご利用者同士が協力し合いながら作業が行えるよう、席の配置などの環境作りに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会があるごとに家族には近況報告を行い情報の共有を行っている。そのうえで他に相談や気になることはないか声をかけている。ご家族の思いなどを個別記録に記入し、情報の共有をし、統一した対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策の中、馴染みの場所や人との関係が深く築けていない部分もあったが、知人や家族との電話・手紙のやり取りは家族の協力を得ながら継続して行う事ができるよう支援している。	コロナ禍でも感染状況に応じ、現在は不織布マスクでの短時間面会が可能となっている。又、電話・年賀状のやり取りの他、法事・同窓会・受診・米泉湖への花見ドライブ・さるびあ便りによる近況報告等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や関係性を把握し、共同生活の場では定期的に席の配置を換え雰囲気作りに努めている。場合に寄っては職員が間に入り、孤立せず支え合いながら会話や共同での作業ができるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去に伴い契約が終了した場合でも、これまでの関係性を大切に、必要に応じては相談できることを伝えている。同施設内の特養に入所になられた方については、転居後にも会いに行くなどし関係性を継続するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の行動、言動、表情に注意を払い気づいた事があれば個別記録に記入している。場合に依っては臨時のカンファレンスを行い、より良いケアが行えるよう努めている。利用者の要望や思いを細かく記録することで職員間で共有し本人に合ったケアができるよう努めている。	職員は利用者と一緒に話さず中で深く関わりを持ち、思いを汲み取って担当者会議に反映する等、思いの共有に努めている。食事が進まない利用者の対応に苦慮していたが、家族情報により馴染みの食器や小さな酢飯のむすびにする等、本人の気持ちに配慮して食の改善に繋がった例がある。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの生活環境の様子について、本人や家族、利用していた過去のサービス関係者から情報を収集している。その情報をもとに環境作りを行い、少しでも馴染みの環境に近い状態で生活が送れるよう努めている。		

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りの中で少しでも生活状況などに変化があれば、記録に残している。職員間の申し送りや記録を確認することで、状態を把握し統一したケアができるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は3ヶ月に一度ケアカンファレンスを実施し、本人や家族の意向、主治医や看護師、職員の意見を反映させ毎日のモニタリング表により、ケアチェックを行い介護計画に反映させている。	関係する多職種の意見も反映した原案を担当者会議で検討し家族同意を得て本案としている。三カ月毎にモニタリングを集約・担当者会議を行い、半年を基本に計画を見直している。職員と毎朝のゴミ出しに同行、個別契約の新聞を毎朝玄関に取りに行く等、継続してできる事を立案の柱と考えている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や生活状況を把握し、少しの変化や思いを会話や表情から情報収集し行動・言動を詳細に記録し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調の変化に合わせて医療機関の受診介助や送迎の対応をしている。訪問歯科・訪問理美容・移動販売など本人のニーズに対応できるよう柔軟な支援を実施している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の中、ボランティアなどの受け入れが難しい状況で、近隣の大学の実習生や保育園児の訪問などがあり、楽しそうな表情を見ることができた。以前は、2ヶ月毎の介護相談員の来苑や地域ボランティアの訪問もあり、地域の方との触れ合う機会が多かった。		

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による週2回の回診または、定期受診の他にも、その症状によって家族の協力のもと専門医への受診ができるように努めている。状態に変化があった場合はこまめに家族と連絡を取り経過を報告している。職員は利用者の行動・言動に注意し体調の変化の早期発見に努め、主治医へ迅速な報告・相談に努めている。	利用開始前の主治医の受診継続も可能だが全利用者は協力医を主治医としている。協力医から週2回、協力歯科医は月1回の訪問診療を受けている。専門医の受診は主に家族が協力している。協力医療機関や併設施設の看護師との連携もあり、適切な医療が受けられる体制を築いている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は体調の変化など、個別記録に詳細に記録し経過が分かるよう努めている。 協力医療機関から派遣される看護師と情報共有し、必要に応じて処置を依頼したり、医療機関に迅速につなげて対応できるよう体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、書面または地域連携室との連絡を密にし安心して治療が受けれるよう努めている。退院前には入院先に面談に行き、情報収集したうえで退院後には適切なケアが行えるよう努めている。入院先のスタッフと情報交換を行うことで、病院関係者との関係づくりを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族に「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づいて事業所で出来る対応について説明している。重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師と連携し、他施設や医療機関への移行を踏まえて家族と話し合い、ご理解をいただいたうえで方針を決め、他の医療機関へ繋ぐなどの対応をしている。	利用開始時、「重度化対応、終末期ケア対応指針」にて基本的な方針を説明し理解を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には関係者で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。協力医との医療連携をもとに入院等による十分な医療・介護支援体制に取り組む方針である。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	全ての職員が応急手当や初期対応を身につけているとは言えないが、看護職員を講師として応急手当や初期対応の研修を定期的に行い実践力を身につけるようにしている。事故発生時には、速やかに報告書を作成し事故を振り返る事で、改善策を検討し実施することで再発防止に努めている。	事故防止の実践力を高めるため事故報告書の作成・回覧・職員会議での総括を通して情報共有に努め、防止策等も運営推進会議で公表している。又、法人・内部研修で救急救命・AED活用等の項目に対し、救急要請の手順を改善するよう取り組んでいる。	初期対応に関する実践力を身につけるためグループワーク等、実践的な研修手法も活用して取り組んでいる。しかし全職員の実践的な初期対応力の獲得を判定できる評価軸が不明確である。計画・実行・評価・改善を踏まえた、更なる実践力育成への取り組みを期待したい。

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。訓練時の対応手順を協議し、安全でスムーズに避難できる方法で行っている。 自然災害と新型コロナウイルス感染症のBCP業務計画の策定を行っている。	夜間想定、利用者も参加して火災避難訓練を拠点合同で年2回行っている。災害時に協力を得られる様、地域の防災部長に事業所の緊急連絡網への加入依頼を再開している。令和3年度より策定している自然災害と感染症の業務継続計画を、その後のコロナ感染歴を踏まえ更新している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の個別の症状に合わせケアやコミュニケーションを取るよう努めている。 人生の先輩、ご家族の大切な一員と考え尊重し関わりを持つように心掛けている。日々のケアの中に不適切な対応や声掛けがあれば、職員間で注意し合い適切なケアが提供できるよう努めている。個人情報の管理、秘密保持は十分配慮している。	研修で職員は幅広い知識の習得と資質向上を図ると共に、隔月に虐待の芽点検シートで日頃の言動を振り返り自己覚知を図っている。不適切な対応には管理者等が適宜指導を行い、職員間でも注意し合っている。又、申し送りノートにも居室番号で記載する等、個人情報にも配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態に合わせた分かりやすい言葉やスキンシップを含むコミュニケーションを図ることで表情を読み取っている。その中で思いや希望を理解し自己決定できるよう支援している。今、できることややりたいことを見つけ実施・継続できるよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調やそれぞれのペースに合わせて生活が送れるよう支援している。利用者の思いを確認し尊重しつつ職員間で協力し合いながらケアに努めている。ご家族の希望を確認し、協力のもと個別での活動の機会を増やし充実した生活が送れるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣替えを行い、季節や場所に適した衣類選びを行っている。ご家族の協力のもと季節や体型に合った衣類を持ってきてもらっている。入浴や外出時には本人の意見を尊重しながら服選びを行っている。起床後等には髪を整えたり、月に一度希望者は訪問理美容を利用し身だしなみやおしゃれができるよう努めている。		

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やイベントに合わせて食事やおやつを提供し食事が楽しみの一つとなるよう努めている。料理・おやつレク時には職員と協力しながら工程を行っている。月に数回しかないが、昼食時には職員と協力しながら味噌汁作りを行っている。利用者の個々の力を生かしながら、食事を楽しめるよう支援している。	献立は併設施設の栄養士が立て、副食は施設の厨房から配食している。年一回の嗜好調査や料理レク等で好みを反映し、職員と行う昼食時の味噌汁作りやおやつ作り等、楽しみとなる工夫もある。利用者は片付け等、できる役割を担い、おやつ・果物を買うため移動販売車を利用することもある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事形態を提供している。食器の工夫をし自力摂取ができるよう努めている。一日の水分量や食事量が分かるようチェックシートに記入し、水分量が少ない利用者にはこまめに水分を提供している。食事形態や食事量に応じて栄養補助食品を提供しカロリーの確保に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状態に応じた方法で口腔ケアを実施している。口腔ケアの重要性を理解した上で口腔体操を日々の日課として実施し、口腔機能維持に努めている。入居時には協力歯科による歯科検診の希望を聞き、希望者には訪問歯科受診を行うと共に口腔ケア指導も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェックシートを活用し、利用者一人ひとりのパターンを把握し声かけのタイミングなどの工夫を行いながら排泄を促し、排泄の失敗が減少するよう心掛け、排泄の自立に向けて支援を行っている。	排泄記録表で排泄パターンを把握したトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから紙パンツへの移行、トイレに姿勢安定のために跳ね上げ式の前手すりの設置、夜間排泄時の転倒防止にセンサーマットを設置する等の工夫もあり、状態に合わせた排泄の自立支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェックシートを活用し、排便量や状況を把握し、主治医に報告している。水分摂取量に注意し、適度な運動を取り入れることで、自然排便ができるよう努めている。		

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の定期的な入浴ができるよう計画している。利用者の希望や体調に合わせて入浴の日程を変更したり、声かけの工夫を行うなど柔軟に対応している。また、入浴剤を使用したり肌に合ったボディソープを使用、脱衣所・浴室の温度調整やお湯の設定温度にも希望に添い、入浴が楽しみの一つになるよう心掛けている。	週2回の午前又は午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ柔軟に対応している。入浴は半埋め込み式家庭浴槽での個人浴だが、利用者の重度化に伴い、併設施設の機械浴やシャワー浴・足浴等の対応もしている。季節も楽しめる様、柚子湯や好みの入浴剤を選ぶこともできる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別記録を活用し、個々の生活リズムに合わせて無理なく安心・安全に入眠できるよう、日中の活動量拡大を図っている。昼と夜とのメリハリがつくよう日中はカーテンを開けるなどの工夫をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボードを作成し、入居者の顔写真を貼り、薬の目的や副作用など確認できるようにもし誤薬がないよう努めている。薬の変更時には主治医に確認し個別記録に記入、症状の変化など経過を共有している。薬の間違いがなく服薬ボードの二重チェックを行う、服薬時には声出し確認をし誤薬がないよう努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割を見つけ、協力し合いながら行う中で生きがいとなるよう支援している。感染対策の中で、外出支援が難しい為、施設内での行事の工夫に努め気分転換ができるよう支援している。	コロナ禍のため事業所内でできる活動を工夫し、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、出来て自信になる事を大切にしている。朝・昼の活動・夕食後の休息の流れの中で役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の中、機会は少なかったが季節を感じられる紅葉ドライブや花見、イルミネーションドライブを行ってきた。また、天気の良い日や利用者の体調の良い時には駐車場での外気浴や近隣の公園までの散歩に出かける機会作りに努めている。	コロナ禍の収束に応じ、敷地内でゴミ出し、近隣への散歩・受診等で外出している。又、紅葉・徳山駅のイルミネーションを車窓から楽しめるドライブの実施や家族の協力を得て自宅への一時的な帰宅をする等、コロナ禍の中でも日常的な外出を支援している。	

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として家族よりお金を預かり、預り金規定のもと出納職員を設け金銭の管理を事業所金庫にて行っている。その中から必要な日用品や移動販売では商品購入し支払いまでの一連の流れを利用者本人が行えるよう努めている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話を楽しみにしている利用者もあり、話しやすい環境作りに努めている。手紙のやり取りができるよう切手や便箋・封筒の購入を家族に協力してもらいながら、定期的に投函できるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やフロアに温湿度計を置き、一定の温湿度管理を行っている。また、食後には換気を行っている。フロアに掲示板を設けており、日々の写真や利用者同士の共同作品・さるびあ便りを掲示し利用者同士や職員との会話の話題にしている。家族からの花を飾る・季節を感じられる装飾を飾り居心地の良い空間作りに努めている。	家族から誕生日に送られた花や季節行事の飾り付け、利用者とする壁掛け作品等で季節の移ろいを感じられる様配慮している。出入口の通路に利用者専用の収納棚を設けたり、西日に対しカーテンを設置して日差しの調節等の工夫をしている。又、感染症対策や温湿度管理にも配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活では利用者同士の関係性に配慮し、定期的な席替えやテーブルの配置を換え、利用者が孤立せず楽しく過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込んだり、家族の写真を飾ったり、行事でもらったプレゼントや家族からのプレゼントを居室に飾っている。 家族協力のもと自宅で咲いた花を面会時に持参してもらい、花瓶に花を生けたりし季節感を味わえるようにしている。	居室にはベッド又は代替用のマットレスや箆笥等を設置して、家具等、使い慣れた物や遺影等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、ベッドから扉までの導線確保のため物の配置を変える等の工夫もある。	

自己	外部	項目（東町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や保護材を使用し転倒・ケガ防止に努めている。限られたスペース中で配置の工夫をしたり、不要な物を置かないよう心掛け安全を確保できるよう空間作りをしている。トイレや居室には分かりやすいよう貼り紙で表示し、迷うことなく自分で行けるよう工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (西町)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所基本方針と事業所重点目標をスタッフルームやユニット内に掲示している。スタッフ会議や内部研修で職員全員に周知し、その理念を職場全体で共有し、認知症高齢者のケアの専門職としての自覚を促し、実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響により、以前のような交流が難しい状況ではあるが、近隣保育園と互いに訪問し合う交流を継続している。また、地域の自治会に加入しており、清掃活動に職員が参加するなど、地域との繋がりを途絶えさせないよう、可能な範囲の活動を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所を含む拠点全体の取組みとして、例年、地域にある大学からの実習生(社福・介福・教職)やインターンシップを受け入れている。また、近隣中学校からの職場体験学習の受け入れや、地域のシニアを対象としたスポーツ大会で、血圧測定と健康相談のブースを担当する活動を継続している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	令和4年度の自己評価に基づき目標達成に向けて具体的な改善に取り組んだ。外部評価の意義を説明し理解を深めたうえで自己評価に取り組み実践した。これまでの評価の結果は職員で共有しており日々のケアサービスに活かしている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度より、書面により活動を報告し、ご意見を照会する方式で対応している。照会シートに記載されるご意見には、コロナ禍で創意工夫を続ける職員を労ってくださるコメントが多く、職員の心の支えとなっていた。令和5年6月より、対面での会議を再開した。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所の実情やケアサービスの取り組み内容を積極的に伝えている。必要に応じてその都度相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を実施し、身体拘束の意味を職員が再認識し職場全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、行動や言葉の拘束についても行わないようチェックリストを実施し支援の振り返りをしている。玄関の施錠は夜間19時から翌日の7時まで安全性を考え行っている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で定期的に虐待の芽が出ていないか、不適切な対応をしていないか検証している。法人全体の研修では外部講師を招いている。職員同士で日常のケアの中に虐待に繋がりがかねない対応が含まれていないかをカンファレンスにて検証し、職員同士で注意し合える関係性を築き、職員全体で未然防止に取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を使用している利用者があり、キーパーソンが高齢であったり他に身内がない人もいる為、研修等を活用して権利擁護に関する制度の理解を深めていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際には利用者や家族に十分な説明とご理解を頂き契約の締結、解約等を行っている。入居後、または退去後の生活の不安が軽減できるよう努めている。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに苦情受付担当者、苦情解決責任者を配置し、受付体制を契約時に説明したうえで玄関前にも掲示している。また、ご意見箱の設置と毎月発行しているさるびあ便りに掲載し、家族の面会時には直接ご意見・ご要望がないかを確認し、ご意見・ご要望が運営に反映できるよう努めている。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で、管理者やユニットリーダーは職員から意見を聞く機会を設けている。月に1度のスタッフ会議やカンファレンス時にも業務改善の提案や職員からの個別での相談や意見、提案を聞き、ユニット運営やよりよいケアに反映させている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に法人の各事業の運営について職員に報告を行い、個々の職員の努力が業績に反映されたことを理解する機会を設け、意欲の向上を図っている。職員の段階に応じた職責を確立させたキャリアパス基準を整備して、業績を適正に評価している。その結果を人事・任用・給与に反映させている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修は年間計画を作成している。職員一人ひとりの業務と力量に応じて外部研修への参加機会を確保し、個々の技術や知識の向上に努めている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体で実施する内部研修では、グループワークを多めに取り入れ、特養やデイサービスの職員からの意見を収集することで、新しい発見を見出し、サービスの質の向上に取り組んでいる。 外部講師を招き、リモート研修も実施している。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前の申し込み時や本人との入居前面談時に、本人の思いをしっかりと聞き新しい生活が不安なく送ることができるよう努めている。困ったことがあれば早急に職員間で話し合い、少しでも不安を取り除くことができるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前の申し込み時や本人との入居前面談時に、困っていることや不安に思っていることを聞き取り、少しでも要望に近づけるよう職員間で検討し、安心して過ごせるよう心掛けている。サービス開始時にはスムーズに生活が送れるよう信頼関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集時に本人と家族の思いを聞き取り、状況に応じて「その時」必要としている支援を見極め、思いに添えられるよう他事業所とも連携を図り柔軟に対応できるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で個々の役割を見つけていただいている。職員は作業後に労いの言葉がけを行っている。日々の気づきや変化をカンファレンスで情報共有し、支えあう関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時等、機会あるごとに家族に近況を報告し情報共有している。その上で気軽に相談等できるよう努めている。家族の思いなど職員間で共有し本人の希望も尊重しケアを行っている。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	LINEを使ったビデオ通話を受け付けており、家族や友人等との面会、電話や手紙などのやり取りが継続できるよう支援している。施設外では、家族の協力を得ながら、本人の思いに沿って近所の行きつけの美容院などへの外出、外泊、同窓会の参加など馴染みの関係が継続できるよう支援している。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、認知症状を把握し利用者同士が楽しく安心して過ごせるよう努めている。利用者同士で会話のできるスペースの確保や、互いに助けあえるような人間関係を築けるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去に伴い契約が終了した場合でも、これまでの関係性を大切に、必要に応じて相談できることを伝えている。同施設内の特養に入所になられた方については、転居後にも会いにいつている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や様子、変化等、個別記録に詳細に残し、情報を共有している。その情報をもとにカンファレンス等で職員同士話し合い本人に合ったより良いケアを検討している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの生活環境の様子について、本人や家族、利用していた過去のサービス関係者から情報を収集している。その情報をもとに環境作りを行い、少しでも馴染みの環境に近い状態で生活が送れるよう努めている。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いを把握するよう努めている。意思疎通が困難な方は表情や身体の動きから思いを推測したり、利用者の視点に立って職員同士意見を出し合い話し合っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は3か月に1度、カンファレンスを実施し、本人や家族の意向、主治医や職員の意見を反映させ介護計画を作成している。 また、毎日のモニタリング表により、ケアのチェックを行い介護計画に反映させている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や生活状況を把握し、少しの変化や思いを会話や表情から情報収集している。行動・言動を詳細に記録し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調の変化に合わせて医療機関の受診介助や送迎介助、訪問理美容や訪問歯科等様々なニーズに対応できるよう柔軟な支援を行っている。 気分転換を兼ねた散歩等の外出支援も行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の中、ボランティアなどの受け入れが難しい状況で、近隣の大学の実習生や保育園児の訪問などがあり、楽しそうな表情を見ることができた。以前は、2ヶ月毎の介護相談員の来苑や地域ボランティアの訪問もあり、地域の方との触れ合う機会が多かった。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による週に2度の回診や、定期受診の他にも日々の状況報告や相談をしている。適切な医療が受けられるよう家族の協力を得て、かかりつけ医や専門医の受診ができるよう送迎等で柔軟に対応している。職員は利用者の言動に注意し、体調の変化の早期発見につなげ、主治医、家族へ迅速な報告、相談に努め連携している。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は体調の変化など、個別記録に詳細に記録し経過が分かるよう努めている。協力医療機関から派遣される看護師と情報共有し、必要に応じて処置を依頼したり、医療機関に迅速につなげ対応できるよう体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室や家族と連携を取り情報交換を行うなど、安心して治療が出来るよう医療機関との連携に努めている。入院中には退院後の支援に備えて、職員が入院先に面談に行き、入院中の様子を情報収集し、適切なケアが行えるようにしている。入院先のスタッフと情報交換を行うことで、病院関係者との関係作りにつなげている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族に「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づいて事業所で出来る対応について説明している。重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師と連携し、他施設や医療機関への移行を踏まえて家族と話し合い、ご理解をいただいたうえで方針を決め、他の医療機関へ繋ぐなどの対応をしている。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	全ての職員が応急手当や初期対応を身につけているとは言えないが、看護職員を講師として応急手当や初期対応の研修を定期的に行い実践力を身につけるようにしている。事故発生時には、速やかに報告書を作成し事故を振り返る事で、改善策を検討し実施する事で再発防止に努めている。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。訓練時の対応手順を協議し、安全でスムーズに避難できる方法で行っている。 自然災害と新型コロナウイルス感染症のBCP業務計画の策定を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を心掛けている。日常のケアの中で不適切な声掛けや対応があれば、職員間でお互いに注意し合い、接遇についてはスタッフ会議や内部研修の中で話し合いを行い、適切なケアが提供できるよう努めている。 個人情報の取り扱い、秘密保持に関しては十分に配慮している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態に合わせて分かりやすい言葉や表現で関わりを持つように努め、コミュニケーションをとっている。本人の思いを傾聴し、自己決定できるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方だけではなく利用者一人ひとりの体調や状態に配慮しながらその時の気持ちを尊重し、支援するよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回希望に応じて理美容の出張サービスを受け、希望に沿ったおしゃれができるよう支援している。本人の意思を尊重しながら季節や場所に適した衣類選びを一緒に行っている。家族の協力のもと、体型や季節にあった服を持ってきてもらい、本人の好みに合った身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全面と衛生面に配慮し、おせち料理、節句のちらし寿司、スイカ割り、敬老会のお弁当など提供し、季節や行事に合わせた食事を楽しんでいただいている。 一緒に準備、調理、食事、後片付け等を行うことにより、個々の力を活かしながら食事を楽しめるよう支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェックシートに記録し管理している。食事量の低下があれば、主治医や家族と相談し、栄養補助食品を購入していただく等一人ひとりの状態に応じた支援をしている。 ご飯の食べにくい利用者には酢飯やむすびにする等、提供方法も工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じた方法で口腔ケアを実施している。 入居時には協力歯科による歯科検診の希望を書面で確認し、希望者には歯科検診の実施をしている。 また、訪問歯科診療では、希望者に対して月一度口腔ケア指導を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェックシートを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けのタイミングや方法など工夫を行っている。個々に合ったトイレ誘導を行い、トイレでの排泄支援に努めている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェックシートを活用し排便量、状態などを把握し、主治医に報告している。 ヤクルトやヨーグルトなどの乳酸菌食品や食物繊維の多いものを食べていただき便秘にならないよう水分摂取量にも気をつけ、無理なく適度な運動する機会を設けている。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回定期的な入浴ができるよう計画している。利用者の希望や体調に合わせて入浴日時を変更するなど、タイミングや声掛けを工夫し臨機応変に対応している。個々の状態に合った入浴、清拭、足浴等を行い、入浴剤と一緒に選ぶなど楽しく入浴できるよう支援している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じて、休息と活動のメリハリがつく事で良眠できるよう努めている。 夕方より声掛けのトーンを下げたり、ユニット内を徐々に暗くする等、眠りやすい環境を作っている。朝の起床時間は一人ひとりその日の状態により違う対応ができるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボードに利用者の顔写真を貼り、職員2名でダブルチェックを行い誤薬がないよう注意している。医師の了承のもと、嚥下の状態により錠剤が飲み込む事ができなければ粉碎して提供、服薬拒否のある利用者には服薬ゼリーを使用し提供など工夫している。薬の作用、副作用などについては服薬ボードの裏に貼り、いつでも確認できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を見つけ、生きがい、活気のある生活が送れるよう支援している。施設内での行事の工夫に努め、日常生活の中で無理なくできることを支援している。季節の行事などで楽しんでいただき、施設内外での散歩で気分転換が図れるよう支援している。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前より感染が落ち着いてきた為、平日の人の少ない時間に少人数でのドライブや花見を行っている。天気の良い日には施設の周りを散歩している。 受診等での外出はご家族に協力していただいている。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として家族よりお金を預かっており、預り金規定のもと出納職員を設け金銭の管理は事業所の金庫にて行っている。その中から、マックスバリューの移動販売車で、本人が必要な日用品や嗜好品を購入し、支払いまでの一連の買い物を楽しむことが出来るよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族の希望に合わせ、LINEを使用したビデオ通話や、手紙のやり取りを行っている利用者もおり、いつでも電話が出来るよう取次ぎなどの支援も行っている。携帯電話持参の利用者は、居室にWi-Fiを設置し、自由に家族との会話を楽しんでいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やフロア内にある温湿度計で一定の温湿度管理を行い、定期的な換気を行っている。共同生活室の掲示板にイベント時の写真を飾り、さるびあ便りの掲示をして、利用者同士が仲良く談笑出来るよう工夫している。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内では一人ひとりが不快な思いのないようテーブルの配置を変えたり、席替えを行う事で利用者同士が楽しく過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り自宅で使用していた物や愛着のある物を持ってきていただき、家具の配置も心地良く、安全に過ごせるよう工夫している。また、家族の協力のもと、定期的に花を持ってきてもらいフロア内に花を置き季節感を味わっていただいている。他にも、本人が必要としている物を持って来てもらい、不便と思うことのないよう努めている。		

自己	外部	項目（西町）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒や転落事故等、怪我に繋がらないように家具の配置、保護材などを使用しフロア内の環境整備を怠る事なく事故防止に努めている。利用者の通り道には不要な物を置かない事で少しでも安全に過ごせるよう心掛けている。トイレや居室が分かりやすいよう張り紙を表示して迷う事なく自身で行けるよう工夫している。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホームさるびあ

作成日

令和 5年 8月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	急変時や事故発生時の初期対応に関する研修には取り組んでいるが、実践的な対応力が獲得できているかを判定する評価軸が不明瞭である。	急変時や事故発生時の初期対応に関する研修で習得したスキルを確認し、全ての職員の実践力を向上させる。	急変時等の初期対応に関する実践力を確認するための評価項目を作成し、まずは自己評価として実施することで課題を明らかにし、内部研修や個別指導の内容を改善する。	12ヶ月
2	5	運営推進会議にご家族の参加が得られておらず、事業の運営に関する情報共有や意見交換が不十分である。	運営推進会議へのご家族の参加を促進し、事業の運営に関する情報を共有する中で意見交換を活性化させる。	口頭や書面にて、運営推進会議にご家族が参加されることの意義を伝え、個別に参加を呼びかける。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。